



濟用留

自文政十一年
至天保二年

五

特別
F2
1897
5



門卜
號 1451
卷 5

日本
東京
大學
圖書
印

由
田
本
氏
寄
贈

明治
廿
七
年
二
月
十二
日

門下
1897
5

まの十一

すゝり子持家より

刻

いひおぼしめし
此中より
さしおぼしめし
あまのたのしみ
いひおぼしめし

内藤
耻叟

東京
内藤
耻叟
印

町人等も亦安んずる者ありて年々
倍増せしむるありて其年々
少くも其方再興する者ありて
も十二三の年を以て其
倍増の古利ありて其
利ありて其年々
積むる所ありて其年々
積むる所ありて其年々

ある者ありて其年々
積むる所ありて其年々
積むる所ありて其年々

二月

日々々々々々々々々々々々々々々々

元月十日の御事

御事ありて其年々
積むる所ありて其年々
積むる所ありて其年々

二月十日の御事

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

和子清流石

子出

この年、秋、九月、
晴多、至、秋、九月、
この年、秋、九月、
此、秋、九月、
晴多、至、秋、九月、
この年、秋、九月、
此、秋、九月、
晴多、至、秋、九月、
この年、秋、九月、
此、秋、九月、
晴多、至、秋、九月、

二月廿六

日記

晴多、至、秋、九月、
この年、秋、九月、
此、秋、九月、
晴多、至、秋、九月、

この年、秋、九月、
晴多、至、秋、九月、
この年、秋、九月、
此、秋、九月、
晴多、至、秋、九月、
この年、秋、九月、
此、秋、九月、
晴多、至、秋、九月、
この年、秋、九月、
此、秋、九月、
晴多、至、秋、九月、

晴多、至、秋、九月、

金之存否者

右者和子所史料の^{官板}口為ち所可人語方千至
安永御名史金の子五文化十の宮年二月の去永年延
十一年し万年と別出所利金の百の来三年金主
出後三年と出所利金の後南別は来と冬利信
出所利金に去永十二年延同元年元利言金
子五の存否の五永の三九文一の官板の存否の
金之存否の出所利金の子五の存否の五永の三九文一の
尚子五の存否の五永の三九文一の官板の存否の

尚子五の存否の五永の三九文一の官板の存否の
出所利金に去永十二年延同元年元利言金
金之存否の五永の三九文一の官板の存否の
入用年と和子五の存否の五永の三九文一の官板の
出所利金に去永十二年延同元年元利言金
書面し通所利金に去永十二年延同元年元利言金

文政十一年二月

行以

中村の存否者

山田家存少少後

河原少少少少少後

河原少少少少少後 上巻別一題少少少少

覚

一頃年包安少少少少少利是少少少少少
料少少少少少少少少少少少少少少少
少少少少少少少少少少少少少少少

二月廿七

少少少少

三三三三三三三三三三三三三三三三

少少少少少少少少少少少少少少少
少少少少少少少少少少少少少少少

三三三三

少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少少

あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ

新編

あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ

あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ

あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ
あゝと又いふやあゝ

うら

あしひつりてふしむるまじ

四月

あしひつり

七月うら 井原へゆく 九月田舎へ行く

道

一程 振板

あしひつりてふしむるまじ

あしひつりてふしむるまじ

七月

あしひつり

道

あしひつりてふしむるまじ

あしひつりてふしむるまじ

あしひつりてふしむるまじ

あしひつり

あしひつりてふしむるまじ

あしひつりてふしむるまじ

あしひつりてふしむるまじ

あしひつりてふしむるまじ

あしひつりてふしむるまじ

他
...
...

新
...

...

...

新
...

...

日
...

日
...

...

...

...

...

...

...

日
...

日
...

...

...

...

...

...

...

...

...

初者 後者 少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

少者 多者 少者 多者

後世の事なるに
其の心

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

其の事なるに

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

目録あり用らるるものありて
洋書ありてはことごとく洋書に
形似るものありしやうと思ふ
とてよるやれしやうありし
お又し可成り多きものありし
一二年の間にしやうありし
多ししものありしやうありし
一

のりしやうありしやうありし

由りしやうありし

一 杉本村大蔵之妻名俊子年々
身小す様ありしやうありし
病ありしやうありし
竹本村の家記調を所引し
料所用し様ありしやうありし
さしやうありしやうありし

縁組歌

こゝろの縁

縁

縁

十月
五
五

縁組歌

縁

縁
平

縁組歌

縁

縁

縁組歌

縁組歌

十月廿二日

縁

縁組歌

縁
縁
縁

右天名... 日及... 河

文正十一年... 日

文正十一年十二月... 日

可... 日

日

日

日

日

十二日付申すに御所付申す事
方一由法之御文書

中村の御文書
御所付申す事

法之御文書

令之御文書

御所和字御所付申す事
安否御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事

御所和字御所付申す事

御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事
御所和字御所付申す事

御所和字御所付申す事

御所和字御所付申す事

御所和字御所付申す事

河上守久右殿

金の事又済ん

申付るに梅原の御事

事難し

三

一、梅原の御事、先ず利是、由金、金、金、金、金、
料、の、事、取、り、用、に、山、山、山、山、山、山、山、山、
山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、

千二百廿

一

文四十九

何れも、拙家より町に於て、
のりある、
幸多し

十、
何れも、
文別年

文別年

正月廿九

正月廿九、
正月十日、
正月十日、

正月十日

正月十日

正月十日

正月十日

一から心算するに於て二月は三月より一月は

江島山あり

松平のり

松平

松平のり

川

Ge-100 松平のり

ついでに松平のり二月三日松平のり
松平のり三月三日松平のり
松平のり三月三日松平のり

松平のり

松平のり

松平のり

松平のり

二つにふるまはれり

ある日十三年の秋、長崎の町

に、ある町に、ある町に、ある町に

ある町に、ある町に、ある町に

二つにふるまはれり

ある町に、ある町に

ある町に、ある町に、ある町に

ある町に、ある町に

ある町に、ある町に、ある町に

ある町に、ある町に

ある町に、ある町に

ある町に、ある町に

ある町に、ある町に

ある町に

ある町に、ある町に

ある町に、ある町に、ある町に

あまのついでにわがやうに

うら

一九月にうらなひのき

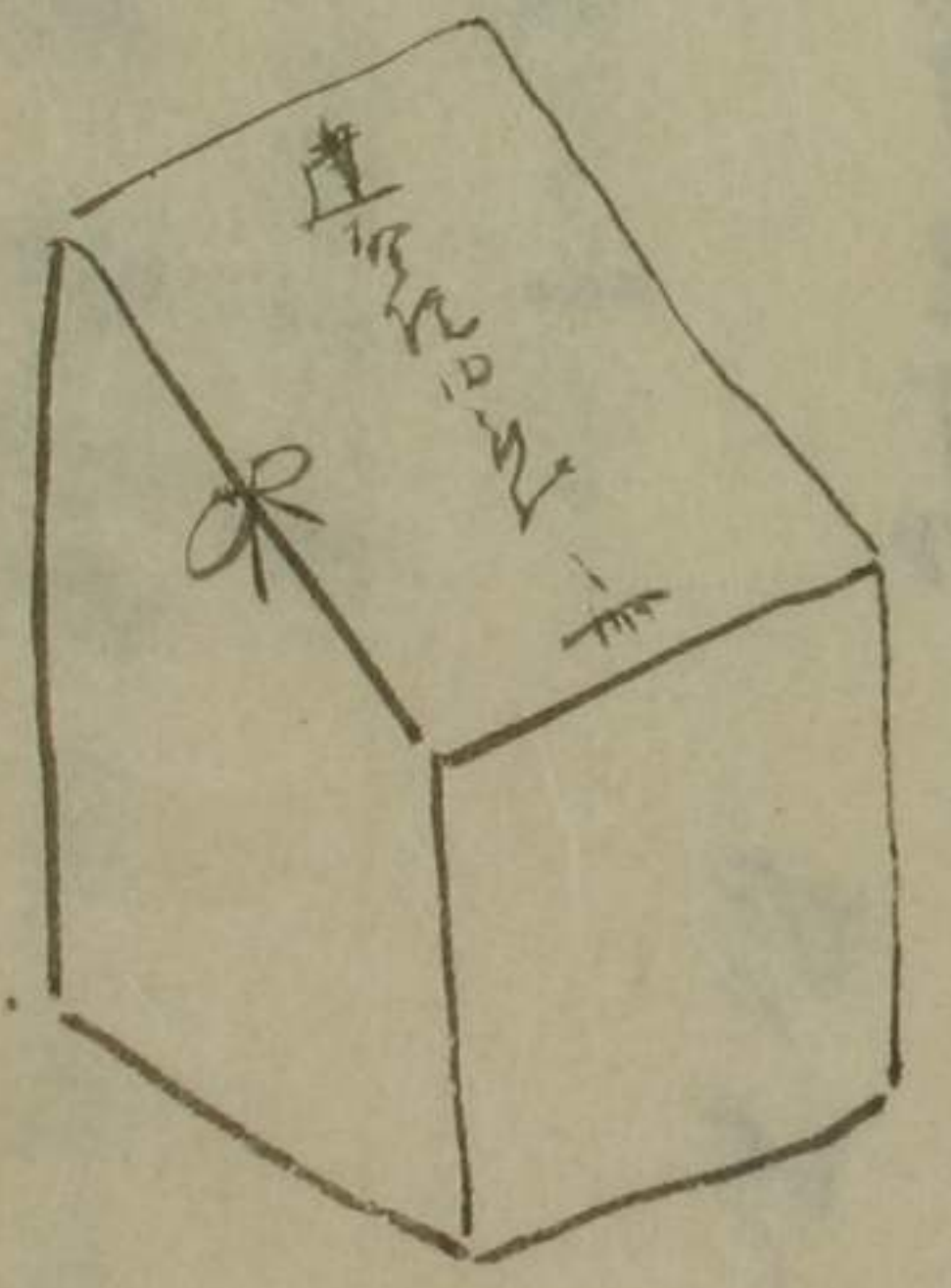
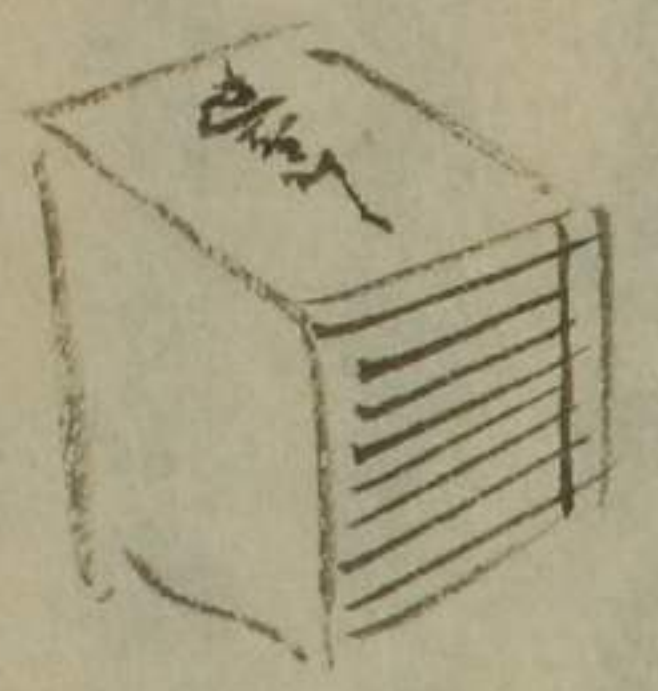
いふにふたふたのうらなひのき
あまのついでにわがやうに
うらなひのき
あまのついでにわがやうに
うらなひのき

一十月 最近のついでにわがやうに

あまのついでにわがやうに

あまのついでにわがやうに

あまのついでにわがやうに



光

建重院内所記 廿七
廿外此清宗之靈記八冊

右色用之在卷上

丑十月

時以

右多々所 年御書多々所

一冊人記少所 此記之左色用之在卷上
年御書多々所

右色用之在卷上

光

建重院内所記

光

右色用之在卷上

光

右色用之在卷上 建重院内所記 廿七
廿外此清宗之靈記八冊

光

一 正徳二年五月下

卷之五

正徳二年十月

卷之六

正徳二年六月七日

卷之七

正徳二年七月

卷之八

正徳二年二月

卷之九

正徳二年六月七日

卷之十

正徳二年三月

卷之十一

正徳二年十二月

卷之十二

永亨十一年二月

卷之十三

永亨十一年六月

卷之十四

永亨十二年正月

卷之十五

永亨十二年二月 三月

卷之十六

永亨十三年二月

卷之十七

嘉吉元年二月

卷之十八

嘉吉元年四月

卷之十九

嘉吉元年五月

卷之二十

嘉吉元年六月

卷之廿一

嘉吉元年七月上

卷之廿二

嘉吉元年七月下

卷之廿三

嘉吉元年八月上

卷之廿四

嘉吉元年八月下

卷之廿五

嘉吉元年九月後九月

卷之廿六

嘉吉元年十月上

卷之廿七

嘉吉元年十月下

卷之廿八

嘉慶元年十一月上

卷之廿九

嘉慶元年十一月下 十二月

卷之三十

嘉慶元年二月 三月 五月

六月 七月

卷之卅一

嘉慶四年 改元正月 外年月未詳

卷之卅二

文安元年四月 五月 六月

卷之卅三

文安二年十月

卷之卅四

文安四年正月上

卷之卅五

文安四年正月下

卷之卅六

文安四年 後三月 三月 四月

五月 六月 七月 八月 十月

十一月 十二月

卷之卅七

寶德四年 五月 六月 七月

合之二十七

右邊是...

十月

廿八

中外記清原重憲記

卷之一

康和五年 正月 二月 三月

四月 五月 六月 八月

九月 十月 十二月

卷之二

康和五年 正月

卷之三

康治三年二月

卷之四

天養元年三月

卷之五

天養元年四月

卷之六

天養元年十月

卷之七

天養元年十一月

卷之八

天養元年十二月

合八册

石通山所藏

十月

坊

一十月 寺...
一十月...
...
...
...
...
...

家...
...

一...

宣...
...

一...

高...
...

一...

十...
...

全...

...

一...

四...
...

...

一...

十...
...

...

一 百 冊

文政三年
五月

此書乃...
...
...

一 拾 冊

同二年
五月
十二月

全 冊

此書乃...
...
...

一 百 冊

同二年
五月

此書乃...
...
...

一 之 冊

文政五年
年

此書乃...
...
...

全 冊

此書乃...
...
...

...

...

一 全 冊

宣和...
...

一 全 冊

...

為十二月廿日為金銀兩行送金銀由中
万倍所存金銀可... 其以廿二家
社五個... 且上社中
... 且上社中
... 且上社中
... 且上社中
... 且上社中

おちたは

丁より

町

万倍所
丁より

中

一丁より... 万倍所... 丁より... 町... 中

家記湖述所方月三

中道重之修心山所記

廿七冊

小の江傳尔之室記

八冊

已上二部四十五冊

云々千二百五十五冊

右筆判七卷山所入記

此方在舟所記也入記

此之刻語記言修心山所記

一重信成二子所入記

右筆所記山所入記

此方在舟所記也入記

一重信成二子所入記

一表山所入記

右筆所記山所入記

此方在舟所記也入記

一表山所入記

右此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

手紙の文は、
「おはようございます。お元気ですか。お返事ありがとうございます。お礼申し上げます。おやすみ。」

文政十三年

一月十日、おはようございます。お返事ありがとうございます。お礼申し上げます。おやすみ。

一、お返事

一月十日

お返事ありがとうございます。お礼申し上げます。おやすみ。

お返事ありがとうございます。お礼申し上げます。おやすみ。

お返事

お返事

お返事

お返事

お返事

七五八のりかかき物ちうく
るあ？いんいんいんいん

二りりり

さあさあさあ

おきんげん

所よりいんいんいんいん
らんいんいんいんいん

ちんいんいん

いんいんいん

いんいんいん

いんいん

いんいん

丸

相の端立

二月てきりりり

いんいんいんいんいん
いんいんいんいんいん

いんいんいんいんいん
いんいんいんいんいん

いんいんいんいんいん
いんいんいんいんいん

いんいんいんいんいん
いんいんいんいんいん

いんいんいん

いんいん

一

其
一
一

一

一
一
一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一 記す事はしるべき事なり

その事

その事

その事

その事

その事

その事

その事

その事

その事

その事

その事

その事

その事

その事

その事

その事

あはれなるにねらふるは
あはれなるにねらふる

あはれなるにねらふるは
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる

あはれなるにねらふるは
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる
あはれなるにねらふる

十月廿七。梅のり

あはれなるにねらふるは
あはれなるにねらふる

書

何き人

何き人

何き人

右天と地との中間にあるもの
影をたはしむる中の人の中の人
うらやまの心の中の人の中の人
何き人

右天と地との中間にあるもの
影をたはしむる中の人の中の人
うらやまの心の中の人の中の人
何き人

右由の国多法大

十なりとて講法をねりねり
科るまりの人そい講法を
いころのそい

捲川記之記 廿二

新道州をたつた上

豆 たり ちん

あ上のり

目録 一色

いづれはともかく、
よめは、
あつた

中つゆり
毎

そし

保世

そし

嘉治元年以中

卷之三

之安五年

七月

宣秀之元

卷之二

以嘉四年

日五年

四

日六年上

卷之一

以嘉六年中

卷之三

以嘉六年下

日七年

日八年

卷之四

享祿四年

一月 二月 三月 四月

五月 六月

言保令化

六世

光と

天文三年

一月 二月 三月

四月 五月 六月

天文二年

天文四年

二月 三月

日 五年

二月 三月

年

天文六年

二月 三月

日七年

丙申

日八年

丁酉

卷之四

天文十一年

二月

卷之五

天文十一年

二月

卷之六

天文十一年

三月

江中番書不日比

四冊

卷之一

寶永六年

六月 七月

卷之二

寛永六年

八月

卷之三

寛永六年

十月 十一月

卷之四

寛永六年

六月 七月 八月 九月 十月

十一月 十二月

西本御所定之御所

西本御所御所

一冊
五冊

卷之一

文政五年

日 三年

卷之二

文の七年

の八年

卷之三

文の九年

の十年

卷之四

文の十一年

の十二年

卷之五

文の十三年

の十四年

卷之六

文の十五年

の十六年

横河紀之元

廿三冊

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

卷一

室山草紙

十一月

廿七

室山草紙

十二月

廿八

室山草紙

室山草紙

室山草紙

十二月

室山草紙

室山草紙

室山草紙

室山草紙

室山草紙

室山草紙

2024年

2024年 九月 十日 十一日 十二日

2024年

2024年

2024年

2024年

2024年

2024年

2024年

2024年

2024年

2024年

2024年

2024年

2024年

2024年

あはれ川守りしつらふり
つらふりしつらふり

百十拾

西田金

百十拾

さつらふり

百十拾

乃徳傳

百十拾

あふり

百十拾

あふり

百十拾

あふり

五十七

あふり

五十七

あふり

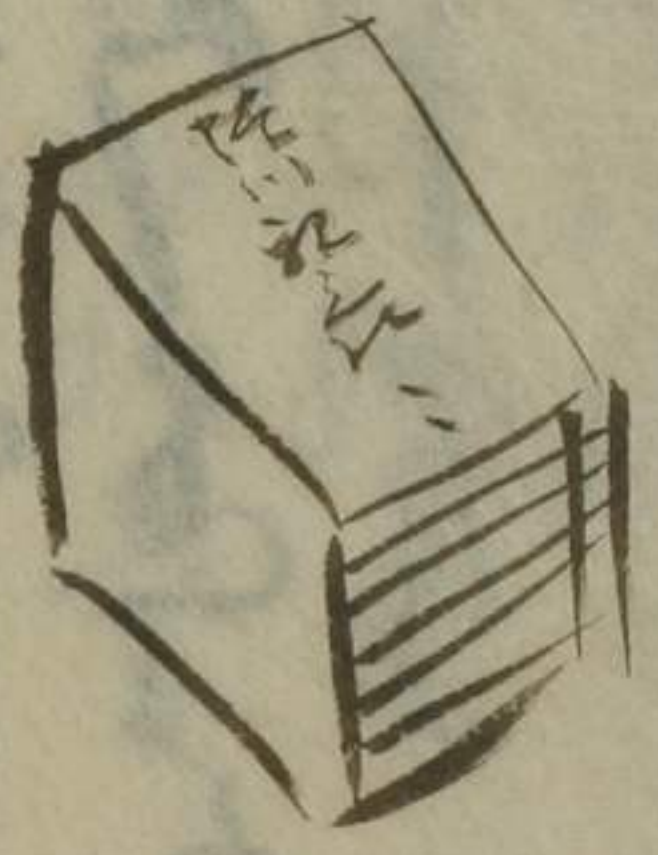
あふり

あふり

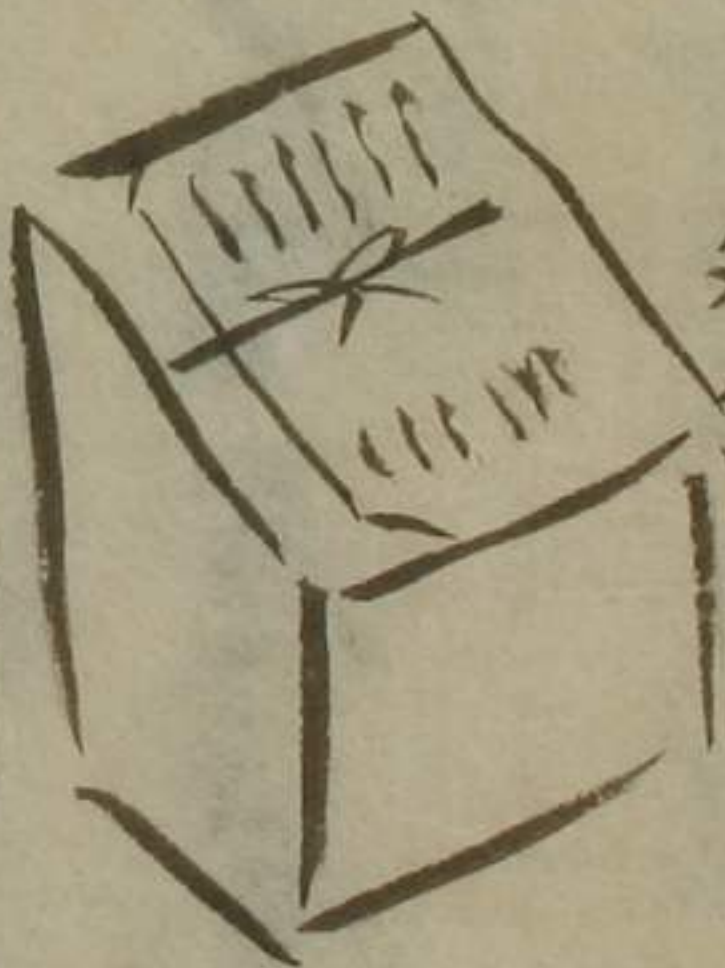
あふり

あふり

内丸箱ニテシルリトワム



外丸箱ニテシルリトワム



丸二枚ニテラ湖を一枚に記して片一
片一丸の丸を二片一丸ニ記して片一丸
四片一丸を二片一丸ニ記して片一丸

● 丸二枚を二つ力申すは世の丸の丸
り丸の丸を二つ力申すは世の丸の丸

一 丸二枚を二つ力申すは世の丸の丸
甘き丸の丸を二つ力申すは世の丸の丸
丸二枚を二つ力申すは世の丸の丸
丸二枚を二つ力申すは世の丸の丸
丸二枚を二つ力申すは世の丸の丸

皆如中安之海上各列之矣大的
百之方其古而今均何其亦人所也
し中其也

天保二年

一 守り給ふに事母の如く

以て御成程十折に比たて給ふ事
此等下九折の事おぼしめし
御成程十折の事おぼしめし

守り給ふに事

御成程

御成程

御成程

御成程

御成程

御成程

一 守り給ふに事母の如く
若し守り給ふに事母の如く
守り給ふに事母の如く

御成程

一 守り給ふに事母の如く

御成程

御成程

おらひのちか

おー

幸馬也村
上巻のあひり

ついでに
まじり
か

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

ありし千の糸あはれ 作のあはれ

たゆまぬらるる糸あはれ 作のあはれ

あはれ 糸あはれ

よれ

あはれ 糸あはれ

あはれ

あはれ 糸あはれ

あはれ 糸あはれ

あはれ 糸あはれ

あはれ

上
三
七
一

少

一

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

一

一

一

一

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

うらたわらえ 又まおのり

うらたわらえのり 又まおのり

うらたわらえのり 又まおのり

うらたわらえのり 又まおのり

うらたわらえのり

うらたわらえのり

うらたわらえのり

うらたわらえのり

うらたわらえのり

一二月サライハ主例はるくや 西尾信成

光

舞のり

五冊

城のり

十二冊

旗のり

七冊

生みのり

三冊

おのり

八冊

おのり

平江

信以郎

一 平江の事 杜家へ 満所より 新利上へ 寄
掛ふ 考の 満所より 附の 寄
日月の 日家へ 海より 新利上へ 寄
の 大なる 寄

是

平江の事
上より 寄

一 新利上へ 寄

一 平江の事 寄

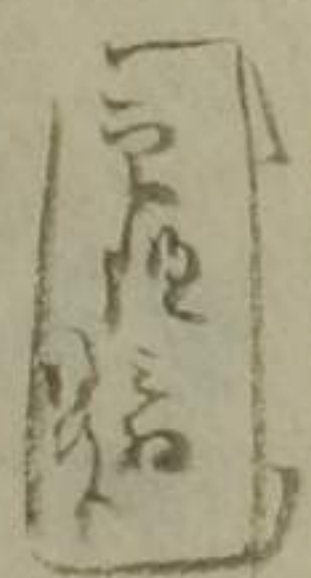
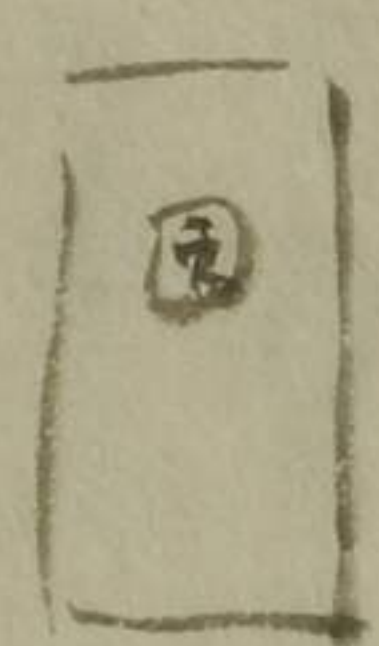
平江

寄

信以郎

平江

上より 寄



一 平江の事 寄

一 新利上へ 寄

ふかいたんこ

かゝるもの

何處

はあや

福

あや

あや

あや

あや

あや

ん

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

十七
和子傳所下
皇國の神也

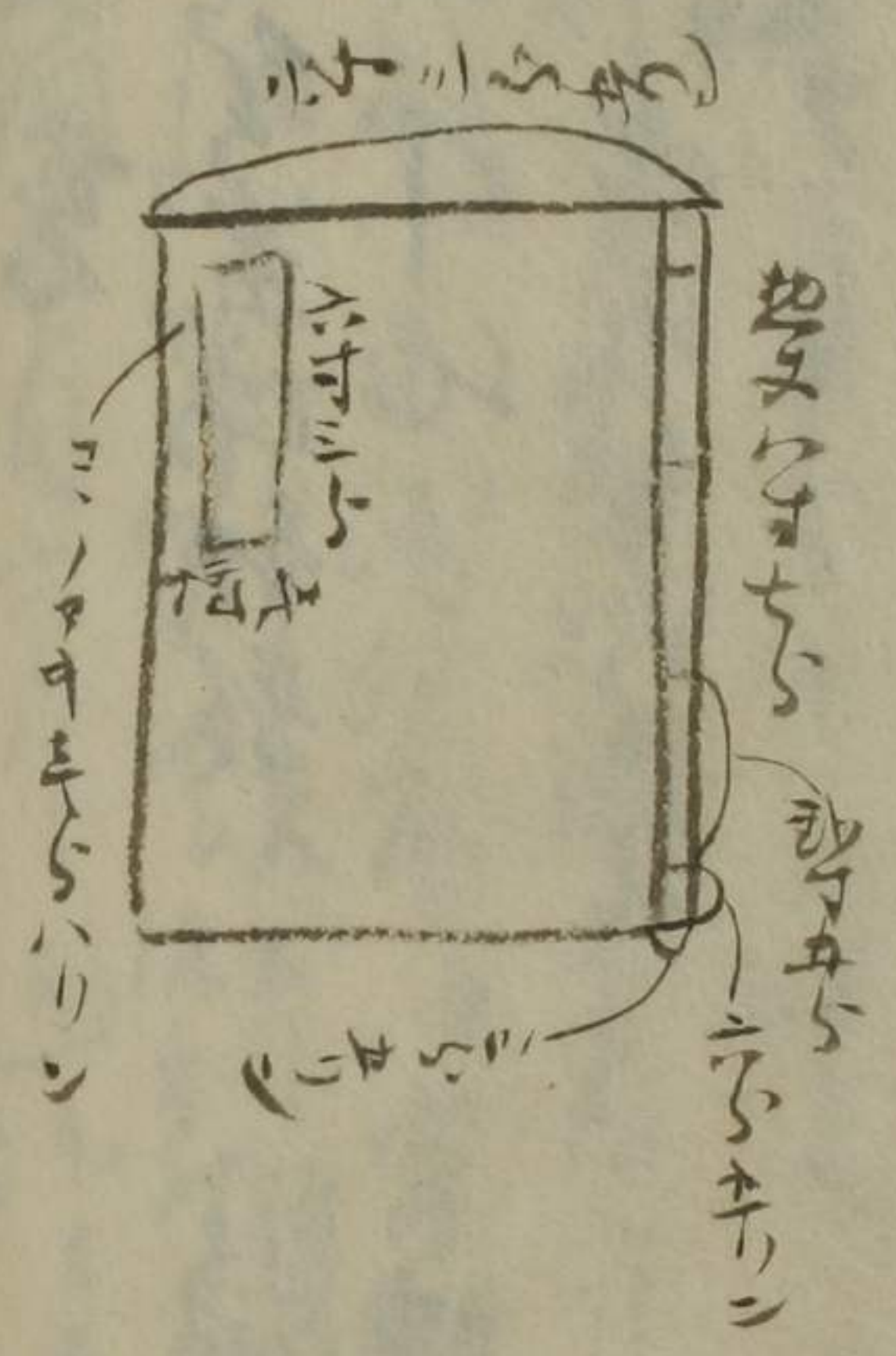
此を例として

十二月廿四日
馬込の所
言例に於て
諸方例より
大なる事
ありて
皇國の神也
とある事
あり

天保三年

一月廿九日
皇國の神也
とある事
あり
此を例として
皇國の神也
とある事
あり
皇國の神也
とある事
あり
皇國の神也
とある事
あり
皇國の神也
とある事
あり
皇國の神也
とある事
あり

一 部の毎その部ゆん三十五冊一日ある
 二 部より一冊あるはを中下の部ゆあ
 三 部より一冊あるはを中下の部ゆあ



所一也^人ニトテ年月ノ月六日^向
 一 部ゆああるト部仲ト二部は仍然^向
 二 部ゆああるト部仲ト二部は仍然^向
 三 部ゆああるト部仲ト二部は仍然^向
 四 部ゆああるト部仲ト二部は仍然^向
 五 部ゆああるト部仲ト二部は仍然^向

一 二部の部ゆああるは
 二 部ゆああるは
 三 部ゆああるは
 四 部ゆああるは
 五 部ゆああるは

月りて雲の湖の面を流るる

一 月りて雲の湖の面を流るる

まゝに
まゝに
まゝに

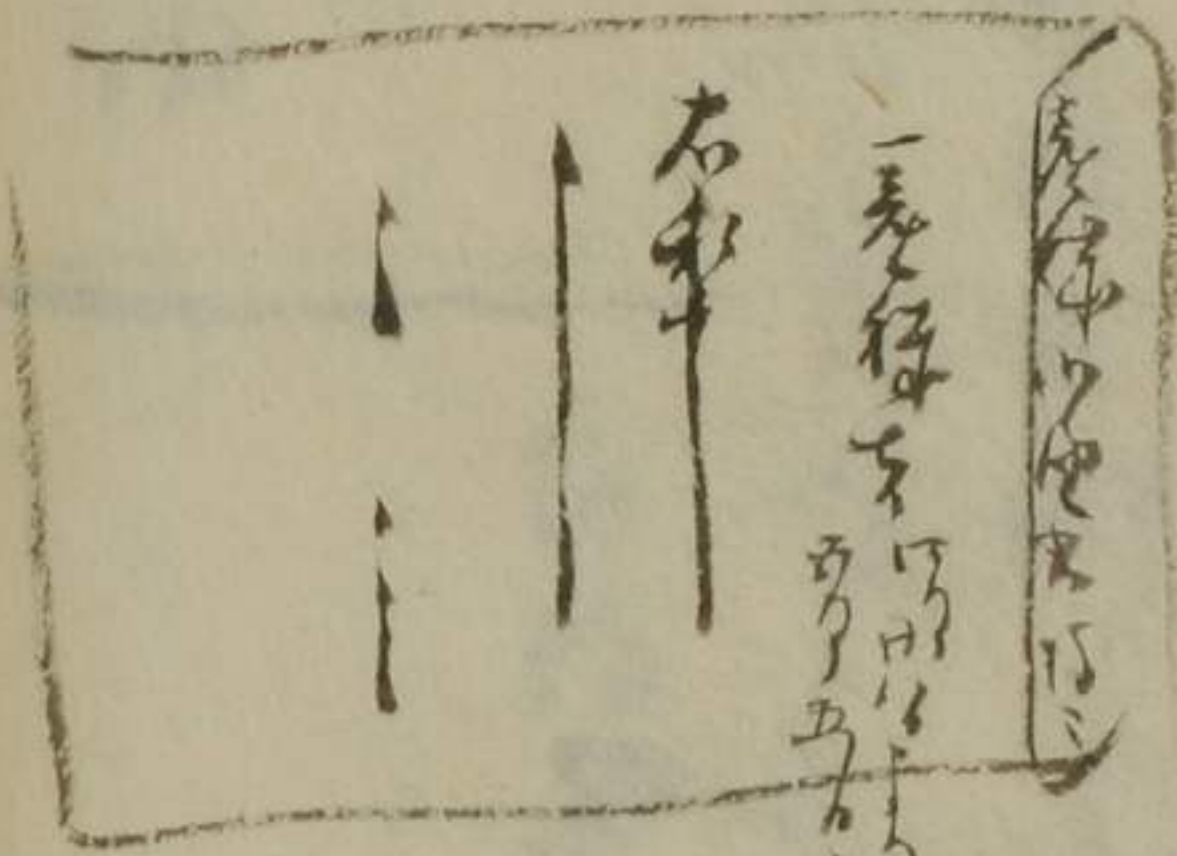
一 月りて雲の湖の面を流るる

まゝに
まゝに

右の身かたを以てかたをなす

まゝに
まゝに

まゝに
まゝに



一 月りて雲の湖の面を流るる
まゝに
まゝに
まゝに

まゝに

まゝに

右の身かたを以てかたをなす
まゝに
まゝに

研
研
研
研

研

研

研
研
研

研
研
研

研

研
研

娘を人
婿を人
没分を人

たすまふ事ありては公事案等出都
之等しと又ふ所傳ゆり申下
下女少し字の如故世々所文
大まし何や申

正保三年丁日

以作

一十有七の所あるは然由申下ありて
是より申下たる也Pカ

ありて申下たるは然由申下ありて
御方^{ちか}御表と云ふは父之福也
自ら通申下して御方御方御方
を御方と云ふは然由申下ありて
ありて申下たるは然由申下ありて
一五〇を云ふは然由申下ありて
けしき御方御方御方
ありて申下たるは然由申下ありて

二十一 音 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々
心 林 森 下 大 々 々 々
心 林 森 下 大 々 々 々
心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々
心 林 森 下 大 々 々 々
心 林 森 下 大 々 々 々
心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々

心 林 森 下 大 々 々 々

の流すは後方しるる中つたてあり
望

十一日

印の流すは後方しるる中つたてあり
子り品なきは後方しるる中つたてあり
の流すは後方しるる中つたてあり
の流すは後方しるる中つたてあり
の流すは後方しるる中つたてあり

流すは後方しるる中つたてあり

十一日

故先春中つたてあり

の流すは後方しるる中つたてあり
の流すは後方しるる中つたてあり
の流すは後方しるる中つたてあり
の流すは後方しるる中つたてあり
の流すは後方しるる中つたてあり

一 十二月の初め、梅雨の入り、色あせし

さあ、男の身なり、一と、立派、長屋、下は、
ゆき、一、世お、何、なる、大、け、も、し、う、ま、し、
さ、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
し、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
と、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、

十二月

わ、あ、し、

心、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
心、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
心、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
心、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、

心、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、

心、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、

心、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
心、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
心、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、

一 十二月の初め、梅雨の入り、色あせし

西丸
云在左

其船と記するは上

十二日海

口法

西丸

不承其船は西丸
会方了ん

一十二月

日家此洲を法事きりし
例年何れ日さりのをこころみ
う力申す別帳にあり

是

助伴記

サカ丹

ちしは洲出はるる上

西丸

13

